

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A 中学校)

体育大会は、実行委員会を中心に主体的に運営され、各クラスでも実行委員に協力していこうとする体制が作られていた。

体育大会当日の競技の前には各クラスの円陣ができ、互いの結束を高め合う場面も見られた。上級生が、体育大会に向けた準備の役割分担などを下級生にアドバイスをすることなどにより、生徒主体の学校の取組が継承できた

【取組 2】(A 中学校)

校内別室を利用する生徒が校内別室を過ごす環境を自ら選ぶことができるように支援している。具体的には、校内別室を利用する生徒が在籍学級を想起しないように教室とはデザインの異なる机と椅子を用意したスペースと、在籍学級と同様のデザインの机と椅子を用意したスペースを整備した。

また、多くの授業がオンライン授業で配信され、教育支援センターで学習している生徒や家庭で学習している生徒が、一人1台端末を活用して、授業に参加することができている。一人1台端末に学習課題等を掲載し、提出できるようにしているため、欠席している生徒や不登校生徒への安心感につながっている。



【取組 3】(B 中学校)

「分かりやすい授業」の充実に向けて、全ての授業で、学習目標を生徒に提示し、学習活動の過程を説明している。また、学習活動においては、ペアやグループで話し合うなどの学習活動を設定し、理解を深めることができるように支援している。さらに、授業のまとめでは、学習したことを整理し、振り返りを実施する時間を設けている。振り返りの時間などで教員が生徒の取組を認めて、励ますことができるように工夫している。

【取組 4】(全巡回担当校)

全ての巡回担当校で、年度初めに生徒理解を深めるための校内研修会を実施した。この研修において、教職員に不登校生徒への支援方法などを説明するとともに、生徒一人一人の配慮事項の共有を図ることができた。また、夏季休業日中に、市が主催する研修会に参加し、他校の支援員と情報交換することができた。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議 (A 中学校)

毎週、校内委員会が実施され、各学年の担当者から欠席の続く生徒等の状況を共有している。管理職や生活指導の担当教員、不登校対応巡回教員、SC、SSW等が出席し、生徒への支援の充実を図っている。支援会議で検討した内容は、職員室内に資料を回付するなどして共有している。

アウトリーチによる支援 (B 中学校)

不登校対応巡回教員が、学級担任と共に不登校生徒の家庭訪問を実施した。不登校生徒と面会し、家庭での過ごし方を聞き取り、日常生活や趣味などについて話を聞いて、人間関係の構築に努めた。また、オンラインによる面談も実施し、それをきっかけに関係機関につなげることができた。

校内別室における支援 (C 中学校)

生徒自身が、校内別室で取り組む予定を決定し、過ごしている。具体的には、読書をして過ごしたり、一人1台端末で調べ学習を行ったり、授業の課題(ワークシート等)や持参した問題集に取り組んだりするなど、生徒一人一人が計画した予定に基づいて過ごしている。

また、不登校対応巡回教員が、校内別室の支援員と連携し、校内別室の環境を整備するとともに、校内別室を利用する生徒の状況を丁寧に把握し、生徒一人一人の状況に応じた支援を実現した。



デジタル機器を活用した支援 (A 中学校)



オンライン授業で教室の授業に参加する場合は、必要に応じて、支援員が取組状況を確認し、助言等を行っている。

関係機関との連携 (C 中学校)

都立小児総合医療センターや災害医療センターを受診した生徒の状況を、不登校対応巡回教員が医療機関に連絡して、情報交換を行い、今後の支援などの助言を得ることができた。聞き取った情報を校内委員会で情報を共有して、適切な支援が実現できるように検討することができた。

成 果

生徒の状況に応じた支援を実施できた。また、在籍学級での様子を把握しながらの支援を行うことができたので、得意な教科等では、在籍学級に入ることができた不登校生徒もいた。

課 題

校内別室での支援が進まなかった生徒への支援を、担任や学年教員、養護教諭等を含めて継続的に検討する必要がある。